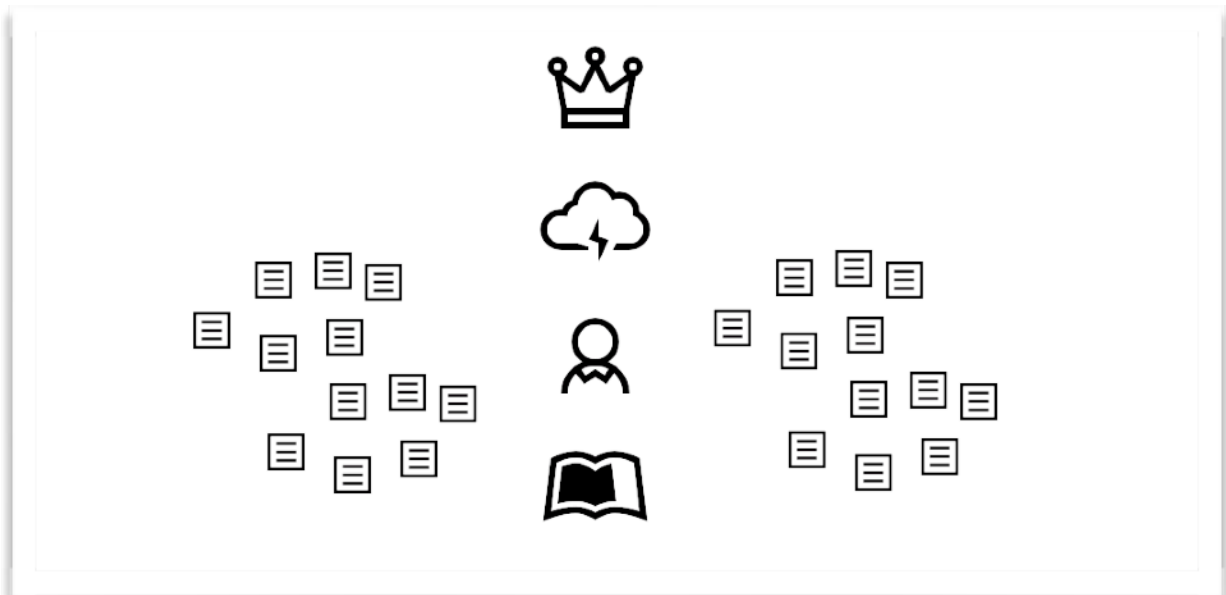


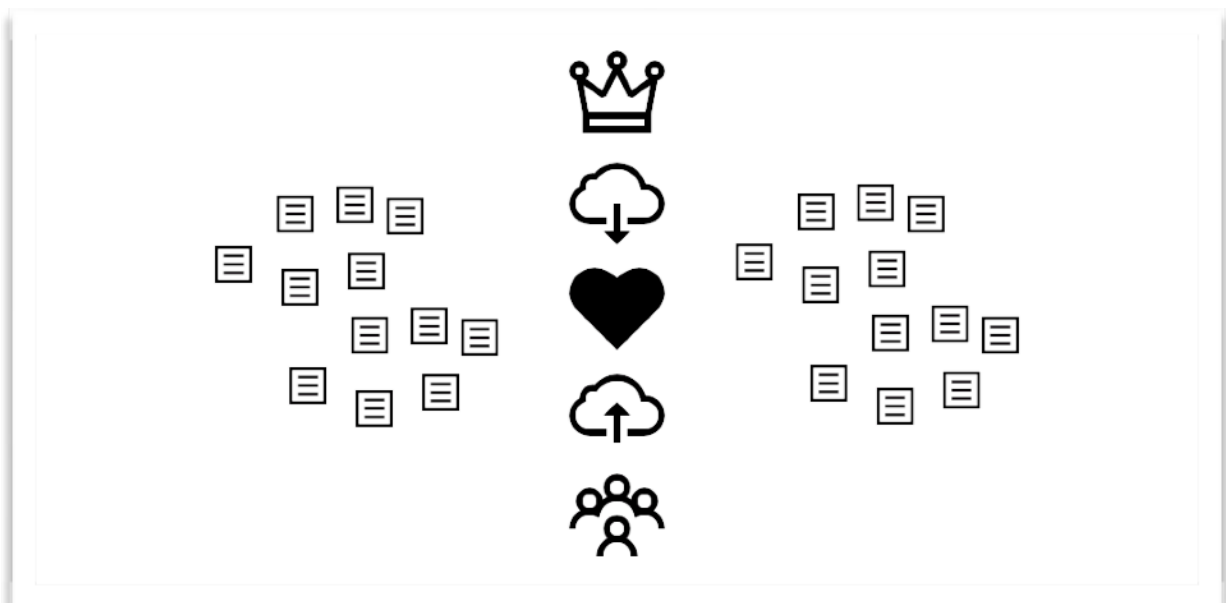
詩篇全体の概略

詩篇の5つの巻物のつながり



神様は、学者であり祭司であるエズラを呼んで命じます。「御霊の歌である詩篇を集めて編纂せよ。」神様がアブラハムとダビデに約束した通りに、バビロンの国、捕囚の家から連れ出してくださった頃のことです。

ダビデをはじめとする詩篇の著者は、ソロモンやモーセ、アサフなどたくさんいます。書かれた時代も状況も内容も様々です。ソロモンだけで千五首書いたと記録されています。



エズラは、この詩篇の中から選んで時代順や出来事順に並べることはしませんでした。書いた人別に集めることもしませんでした。賛美の詩篇、知恵の詩篇、嘆きの詩篇などのジャンル別に並べることもしませんでした。

そうではなくて、神様から民に与えられた契約をあらわす巻物と、民から神様へ感謝と賛美で応答する巻物に編集し、神様と民の契約の愛をあらわすことにしました。












神様から民に与えられた契約の最初に、モーセの歌、申命記32章から「主は岩である」というテーマを選びます。契約の主は、岩なる王です。その岩なる牧者は続く申命記33章の最後のことばで初めて「幸いな者よ。イスラエル」と歌います。弟子であるヨシュアを連想させる詩篇を第1編に配置します。これは、第2サムエル22章ダビデの歌にも再現されます。その「主は岩」という歌は18編として配置します。

[02:45] 次に、主は王であり聖なる方として、ご自分の羊を導き、ご自分の民を作ります。民を約束の地に導き入れます。モーセの歌90編「主は我らの住まい…」で始めるこの詩篇をモーセが作った民側の詩篇として配置します。

それから時が経ってダビデの王の時代になります。主はダビデの祈りに応えて約束してください。ダビデの子が王座に着く。そして、その王が家を立てて王国を確立するという約束です。その通りにソロモンはダビデの王座につきます。そして、神の神殿を建てます。第2巻の終わりにソロモンが王座に着く詩篇72篇を配置し、第3巻の終わりには、ダビデの契約をまとめる89篇を配置します。

[04:07] 「主は王である」が第1巻（スライド#1）、「子が王となる」が第2巻、「神の住まい」が第3巻、「民は住まい」が第4巻となります。

	3月 七週祭	1月 過越祭
	主は良き方	主に感謝せよ
	Ps119 # 5.2 	 # 5.1
		
	# 5.4 	 # 5.3 Ps120-134
	ハレルヤ・アーメン	その恵みはとこしえ
	7月 仮庵祭	40年 荒野

[04:31] 神様がアブラハム、ダビデに誓われた通りに、バビロンの国から連れ出してくださいだったということを記念して、今度は神様が契約を守ってくださったその祝福に民が応答をします。

[04:54] ダビデが天幕でレビ人たちに命じたように、「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。ハレルヤ。」という決まった定型の賛美（セリフ）に従って第5巻を4つに編集します。1集（スライド#5.1）、2集（#5.2）、3集（#5.3）、4集（#5.4）。

2集の「主は良き方」、ここでは、神様のみことばの歌である119篇を配置して、3集では、「その恵みはとこしえまで」と歌う、導きに感謝する詩篇、都上りと言われる120編から134編を集めてきました。

[06:00] これは、民がエルサレムに上って感謝と賛美を捧げる記念祭、祭りの流れにも一致しています。1月の過越の祭り、3月の七週の祭り、40年の荒野（4ヶ月）、7月の仮庵の祭りとなっています。過越の祭りで民が連れ出されて(#5.1)、宝物であるみことばがシナイ山で与えられる(#5.2)。これが119篇です。そして、都であるエルサレムまで導かれる(#5.3)。最後に新しい都、新しい国に入って、新しい創造を喜ぶというのが仮庵の祭り(#5.4),という順番になっています。

子が王となる
42:-72:



主は王である
1:-41:

90:-106:
民は住まい



73:-89:
神の住まい

詩篇

主は良き方
119:



主に感謝せよ
107:-118:

135:-150:
ハレルヤ・アーメン



120:-134:
その恵みはとこしえ

Tehillim / Psalmos

[06:58] 第1巻から第5巻までは、1編から41編を第1巻、42編から72編を第2巻…というように、巻物として編集していきました。

[07:26] 上段の第1巻から第4巻までが神様の契約を愛を表し、下段の第5巻が民の神様への応答です。「主に感謝せよ。主は良い方。その恵みはとこしえまで。ハレルヤ。」が民の応答。それに対し、（上段神様側は）「主は王である。子が王となる。神の住まい。民は住まい。」これが詩篇全体の配列。エズラが編集した詩篇全体の構造になります。